

OB会報

湘南サッカー一部OB会報 第19号

ワールドカップ成功に向けて

県議会にもサッカー部

39回 小泉 親昂

昨年十月二十一日、韓国京畿道水原の公務員研修所グラウンドにおいて、神奈川県議会サッカー部と、京畿道議会サッカー部との親善試合が行われた。結果は五―一で神奈川県議会チームが敗れたが、二〇〇二年の日韓共催のワールドカップへの盛り上げに、一役買ったと考えている。

この試合は、昨年の五月に神奈川県と友好関係にある京畿道議会の代表が神奈川県を訪れた際、県議会の代表から、神奈川県には県議会サッカー部が出来た。是非親善試合を行いたいと申し入れたところ、京畿道議会のほうでもサッカー部を結成し、神奈川県議会に招待状を送ったことで実現したものである。

神奈川県議会には番場定孝(三四回)、小泉親昂(三九回)、水戸将史(五六回)のサッカー部OBが議員として活動している。一昨年番場議員と小泉がある会合で話をした際、二〇〇二年のワールドカップが横浜で行われるが、県議会でもワールドカップ成功に向けて協力をしたいが、そのためにサッカー部を作り、啓蒙

もかねて活動したらどうかということになった。その後、それぞれがサッカーに関心を持ちそうなメンバーに話を持ち掛けたところ、水戸君や、ベルマーレでコーチをしていたもと全日本の選手であった森君などがおおいにやるうということになり、サッカー部をたちあげることになり昨年二月から準備を始めた。その際、ただボールを蹴るのだけではなく、ワールドカップ成功のために賛同する議員をすべて集めた組織にしようということ、実際にプレーする者と、賛助会員に分けて募集したところ、一〇七名の議員のうち五名を除いた全員が賛成し、会員となった。実際にプレーしようと思志表示をしたのは二三名にのぼった。

五月に発会したサッカー部は「神奈川県議会サッカー部二〇〇二」と命名し、番場が監督に、小泉がヘッドコーチに、水戸がコーチに就任、知事や、横浜市長にサッカー部結成の挨拶をすると共に、記者会見し、その事は、各紙が地方版で取り上げた。

夏以降、韓国遠征の話が具体化し始め、

練習をしないといけないということで数回の練習をしたが、三十代、四十代の議員が多く、初めてボールを蹴ったと言う者もいたが、素人とながら、なんとかチームの形が出来、県庁四十雀を相手に練習試合もやり、韓国遠征となった。

京畿道の議会の状況はほとんど分からず、神奈川県議会の議員と試合をするとうことで急遽チームを作ったと言うことであつたが、試合前の練習を見て、若い経験者がかかりいることがわかつた。チームは神奈川県の方が支配していたが、京畿道のチームの監督を務める金議員にハットトリックを決められ、前記のように惨敗した。

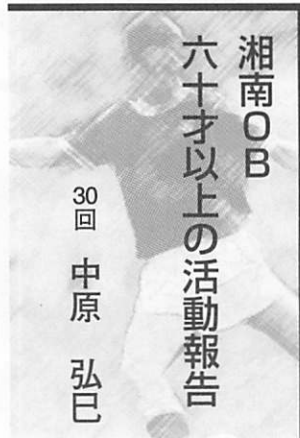
試合後の懇親会で聞いたところ、三十代の経験者がかかりいるとのことで、やむをえなかつたと思われる。しかし一つボールを蹴ることで、お互いの交流が深まったことは実感できた。

また、試合前にはワールドカップ用に建設されている水原の競技場の建設現場を見学した。山のゆるやかな斜面に作られている競技場は、七割方出ていたが、町との距離も近く、アクセスのいい競技場であつた。さて、神奈川県議会にサッカー部が出来たことで、横浜市市議会にもサッカー部が出来つつあり、さっそく試合をしたいとの申し込みがあり、検討している最中であるが、京畿道議会サッカー部は今年五月に神奈川県にくる予定になつている。

議員同士がサッカーを通じての交流が

進めば、底辺拡大や、より多くの人が、サッカーに親しむことになることが期待されており、その事がワールドカップの成功につながることを確信している。

なお、県議会サッカー部から番場、小泉が横浜市の実行委員会のメンバーとなり、ワールドカップの成功にむけて関わっているが、JAWOCの横浜支部の事務局長は、サッカー部のOBではないが、湘南高校三回の卒業生であり、その他多くの湘南OBが関わっていることを申し添えておきたい。



湘南OB

六十才以上の活動報告

30回 中原 弘巳

近年シニア層のサッカーが盛んになっていますが、今年はその動向がさらに高まり、いくつかの60歳以上の全国大会が継続的な公式行事になって来ています。

5月に行われているJヴィレッジの大会は、今年から日本サッカー協会が主催する全国シニア(60歳以上)大会に発展しました。札幌から熊本までの日本全国から22チームが参加しました。日本協会への選手登録も含め、現役に準じた公式な要項による大会です。窮屈な面もありますが、整備された芝生のピッチの上できっちりした試合の運営の中、緊張感の

あるゲームを楽しむことが出来ました。3日間で5試合の強行日程でしたが、2名のフルメンバーの参加で、負けなしの好成績でした。初日から参加した方々の緒戦での頑張りやチームの勢いを作り、最終戦で強豪埼玉県を見事に破りました。

9月開催の刈谷スーパーエイジ大会は形式にとらわれない自由にサッカーを楽しむ大会として、今年で第7回と実績を重ねて来ました。この大会の一つの目的であった「ねんりんびつく」へのサッカー部門参加を本年度に実現させました。3戦全勝でしたが、特に関学中央には動きの早さで圧倒し完勝しました。

この2つの大会には60歳以上の湘南ペガサスを主体とするチームで参加しました。多くのチームが比較的新しい県レベルの選抜チームであるなかで、湘南は早い時期から参加しており、これまでの実績から強いチームとして評価されています。上記のねんりんびつく大会が大阪で行われましたが、サッカー部門の神奈川県選抜チームに多くの湘南メンバーが参加しています。

かつての名門中学OB大会は教育大附属、浦和、湘南の3校OBのFUS交流会として第5回となり、毎年11月23日に行われる定着した大会となつています。今年も浦和のメンバーが充実していましたが、湘南は堅い守備で浦和の優れた個人技を防ぎ、1勝1分けて昨年に続き優勝しました。

続け楽しむことが出来る環境を作りたいと思います。多くの方々の参加をお待ちしています。

※第1回全国シニアサッカー大会

湘南 9-0 高知サッカーOB

湘南 1-0 山形モセスSC

湘南 2-1 札幌サッカークラブ

湘南 1-1 熊本オールドキッカーズ

湘南 3-2 埼玉県シニアサッカーチーム

※第7回スーパーエイジサッカー大会

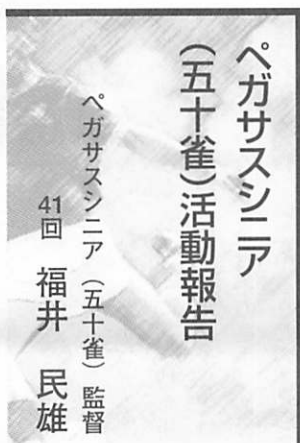
湘南 3-0 関学中央

湘南 2-0 刈谷

※第5回FUSサッカー交流会

湘南(60) 1-1 附属(60)

湘南(60) 2-0 浦和(60)



ペガサスシニア

(五十雀)活動報告

ペガサスシニア(五十雀) 監督
41回 福井 民雄

昨年度は第3回神奈川五十雀リーグにおいては、7勝1分けの無敗で堂々の初優勝を飾ることができました。

今年度も連続優勝を目指しリーグ戦を迎えましたが、ディフェンディングチャンピオンのプレッシャーからか、初戦から2連敗を喫し、現在(11月末)3勝2

敗1分と2連覇が難しい状況にあります。残り2試合は必勝を期して4年連続3位以内の座は確保したいと思っています。

ペガサスシニアチームは五十雀リーグのほか四十雀(三部)リーグ、古河マスターズ大会、FUS(付属・浦和・湘南)サッカー等で年間30試合以上を行っています。登録メンバー39名は昨年と全く同様で平均年齢は58才となり、怪我や病気で故障者も多くなってきたり毎試合1人そろろうかどうかで気をもまなくてはならないのが悩みの種です。

このまま不動のメンバーでは来年末には自動的に平均年齢が60才となってしまい、「五十雀の強豪チーム・湘南ペガサス」の名声が危うくなることが心配です。10月からは41回生の坂部次郎君が加入しました。来年50才を迎える諸君、是非とも加入をお願いします。

我がチームは「楽しいサッカー」をモットーとしながら、常に勝負にもこだわっています。試合に勝てば楽しさ倍増で、勝利の美酒は幾つになってもいいものです。幸い我がチームは勝ちゲームが多くサッカーの楽しさを存分に味わっております。

50才になっても、60才以上になっても未だにサッカーができるこのチームが存在することを幸せに思います。これからも湘南ペガサスシニアは頑張ります。

ペガサスシニア 活動報告

ペガサスシニア (四十雀) 監督
42回 阿部 裕

ペガサスシニアは、ペガサス(ジュニア)を卒業した(50才を迎えた)者を加えた50才台・60才台のメンバーで県50雀リーグを、またほとんど同じメンバーに40才台の若手を数名加えたメンバーで県40雀リーグ(3部)を戦っています。試合では、やはり勝った方が気分が良い(試合後のビールが美味い本音?)と言うことで、適度に勝敗にもこだわりつつ、出席メンバー全員にプレーしてもらおうことをモットーとしています。県リーグ以外にも、第10回古河市シニアサッカー大会(5/27~28、戦績2勝2敗)への参加、また60才以上のメンバーは第1回全国シニアサッカー大会(5/19~5/21、於Jビレッジ、戦績4勝1分)、第7回スーパージェイサッカー大会イン刈谷(9/30~10/1、戦績3戦全勝)へ参加、日頃40才台の相手とも競り合っている成果か、いずれも好成績をおさめて来ています。また今年も例年通り11/23の勤労感謝の日には成城の第一生命グラウンドにてFUS(付属・浦和・湘南の50才以上のOB交流戦)が行われ、親睦が主の行事とは言えこちらも各50才台、60

才台のチームとも1勝1分の負けなしの成績を残しました。

今年の県リーグの戦績ですが、40雀・50雀リーグとも出だしのつまずきと、後半はゴールキーパーの中山をケガで欠き、毎試合フィールドプレーヤーが交代でキーパーをやることを余儀なくされたにもかかわらず、以下の通りつまずまずの成績で終わることが出来そうです。

〈県50雀リーグ〉9チームでのリーグ戦で、昨年の優勝と比較すると物足りない戦績ですが、2試合を残し、3勝2敗1分とつまずまずの状況。

〈県40雀リーグ〉12チームでのリーグ戦で、ほとんどが40才台のチームを相手に平均5.5才前後(60才以上も常時2~3名出場)ながら、40才台の若手の運動量と相変わらず年令を感じさせないエースの藤田(57才)らの活躍もあり、1試合を残し5勝3敗2分と健闘している。

試合毎の出席人数は、たまに多い時で20人程集まったかと思えば、11人病たないこともあり、平均的には交代要員2~3名と言ったところで、土・日に試合が続くと厳しい状況で、ペガサス・ジュニア卒業生と当分不在のゴールキーパー経験者のご加入をお待ち致しております。

(阿部さんは、サッカー部を2年で退部、その後はアンテロープス、湘南ペガサス・ジュニアでプレーし現在もセンターバックとして活躍しています。編集部注)

湘南ペガサス・ジュニア 活動報告

48回 関 佳史

昨年(40雀)から神奈川40雀リーグ2部落ちし、

諸先輩がたから冷たい視線を感じておりました。今年は、何とか帳尻をあわせて、2部2位を確保し、1部復帰が決定しました。4月から6月は、雨で流れる試合も多く、1勝2敗と出足悪い状態でしたが、7月以降、1引き分けをはさんで6連勝し、最終戦まで連れ込みながらも、1部昇格を決めました。戦績は、7勝2敗1分けで、得点22、失点4。2点以上とられた試合はなく、しっかりとディフェンスを元にとりこぼしがすくない堅実な試合運びが今年の特徴です。

さて、今年のメンバーですが、溝口一郎さん(44回)が、シニア入りし、あらたに、鈴木、中村、藤塚(54回)の3氏が加入しました。しかし、皆さんお忙しく、試合参加できたのは、鈴木君だけでした。全体としては、少ない時で15~16名、多い時には23~24名が集まり、成績がよいと盛り上がるものだなとおもいます。

40台前半の若手の選手が、チームになじみはじめ、約30名近いメンバーが、入れ替わり立ち代わり、総力戦で、結果をだしました。延べ11名が得点をあげ、よ

く言えばどこからでも得点がとれ、悪く言えば、切り札となるFWが不在(試合参加できないことが多い)であり、その日にきたメンバーが頼りです。とくに、元松(49回)、五代(51回)、田中(53回)、新倉(53回)の諸氏が公式戦初ゴールを記録、おいしいビール飲めたことでしょうか。

来年は、一部で再びつらい試合の連続となることと思います。しかし、1部の下位チームとの力の差は、ほとんどありませんので、勝てる試合に集中して勝ち、1部残留を目標に頑張ります。来年40歳になる方、すでに40歳になっている方、参加希望者は、関までご連絡下さい。0467-45-6644。

ちよつとうれしかったこと。その1 Gさん(43歳)は、およそ3年前のOB会にふらりと現れた。ジョギング・シューズに、スウェット・パンツといういでたち。曰く「卒業してから、サッカーやってないんですよ。サーフィンはやってんですけど。皆スパイクはいてやってるんですか?マジじゃないですか。」それから3年、厳しい叱咤激励に耐え、体も運動できる状態にもどった(?)彼は、持ち前のキックの正確さを発揮し、ボランチの位置を確保した。まではよかつたが、古河遠征中、芝のすばらしいグラウンドで、オーパー・ヘッド・キックを披露し腰からおちて、そのまま退場。年を考えてやりましょう。(フランクがあつても、サッ

カーができるという主旨です。)

Gさんと同期のIさん(43歳)は、平成元年の現役の活躍に刺激されて、現場復帰し、はやくも13年。自分は、現役時代レギュラーで出場してなかったというトラウマをかかえつつ、いまでは、湘南リーグの渡辺先輩のチームでは、センタリー・バックをまかされている。アフター・アワーズでは、宴会部長としても活躍し、「勝敗を優先するか、サッカーを楽しむのか」という、永遠のテーマを語り続けている。サッカーをやりたいという熱い思いは、誰にも負けないものを私は感じている。

トトカルチヨ湘南 平成十二年度活動報告



70回 石渡 弥

トトカルチヨ湘南は平成元年に久々に冬の高校選手権に出場したときのOBを中心として6年前に創部し、今日に至っ

ています。藤沢市社会人リーグ3部からスタートし、毎年着々とリーグ昇格を続け、昨年には最大の目標としていたKSL1部(神奈川県社会人リーグ1部)にまで迫り着きました。

昨年、予想通りのレベルの高さに苦戦をしいられ、2部落ちの危機もありましたが上位にいた「東邦チタニウム」が関東リーグに昇格したという幸運に助けられ、1部残留することができました。

そして、今年新たに1部残留という最低条件の目標をかかげ、今までにない危機感と責任を各自が持ち、個人が時間の合間をぬってフィジカル面での強化、戦術の理解等々できる限りの対策をねり、大会に挑みました。しかし、残念ながら結果は1勝9敗1分けという散々たる結果で最下位になってしまいました。

KSL1部のチームを分析すると、企業などの単体のチーム(自衛隊厚木・藤沢市役所・住友電工大船・ニチレイ・日立小田原)や地元を拠点に活動をしているチーム(YSCC横浜・コワダ・FCアサヒ・大沢SC・オフサイド)と大きく二つに割れ、話を聞いても試合以外に週に1〜2度の練習を行っているのが我々以外の全チームのようでした。

企業などの単体のチームは仕事が終わった後に夕方にそのままグラウンドに集合することができ、地元を拠点に活動しているチームもほとんどの選手がその近郊で働いているため、簡単に平日練習を行うことができます。

それに比べて、我々トトカルチヨ湘南はほとんどの選手が東京の企業に就職しており、在住も地元以外が大半を占めていることに加え、湘南高校卒の選手だけで活動しています。また、中心選手が30という年齢を目前にしていることで体力的な限界も見え始めているだけでなく、仕事の現場でも責任を持ち始めていることも重なり、ますます「プレーヤー」として厳しい環境に位置してきています。しかし、我々はこのような状況下を脱することはできません。この中で最大限の努力と対策をねり、来年に向けて活動を始めます。

そんな中今年、若手選手(卒業生)の加入が多少できたことはうれしいことでした。今年進学を決めた2名と藤沢市リーグで活動している若手チームから5人の計7人が加わり、登録選手29名になりました。

いつかは来るトトカルチヨの世代交代も現実問題として見つつ、新しい「トトカルチヨ」の再生に向けて来年、もう一度1部昇格にトライします。

湘南クラブ活動報告



71回 竹内 和史

湘南クラブは湘南高校サッカー部OBで構成されたサッカーチームで、藤沢市サッカー協会の社会人に登録して活動を行っています。これまで湘南クラブは93〜95年度卒業生を中心に構成されたチームでした。今年には更に96年度卒業生を新メンバーとして加え、世代の差を感じることもなくチーム一体となってサッカーを楽しんでいます。今回はOB会報を通じて、湘南クラブの今年の活動内容を簡単に報告させていただきます。

練習は週一回、主に東海道線沿いの藤沢〜大船間にあるミズノフットサルプラザで行っています。練習時間は1時間と短く、また最近ではメンバーの予定を合わせることも難しく、なかなか思うように人数も集まりませんが、少しでも体を動かして次の試合につながるように練習に取り組んでいます。

活動のメインとなるのは、半年以上という長い期間で行われる藤沢市社会人リーグです。昨年までは2部リーグで活動を行っていましたが、その2部リーグで見事優勝することができ、今年からは1部リーグで活動を行っています。この1

部リーグでは全8チームの総当たり戦で優勝を争います。また、それと同時に下位2チームは2部リーグへの降格を余儀なくされるため、終盤戦ともなると優勝とともに、1部残留をかけた熾烈な戦いが繰り広げられます。現在までにリーグ戦7戦の内、6戦を消化しました。雨や台風のような強風の中で、また人数が十分に集まらず選手交代が思うようにならないなど、厳しい条件での試合もありましたが、戦績は4勝2分けと好成績を残しています。そしてリーグ戦も残すところ1試合となり、もしこの最終戦で勝利を取ることができれば念願の1部リーグ優勝、つまり藤沢市社会人リーグの頂点に立つことができます。

またリーグ戦の合間を利用して、普段リーグ戦では活動していないチームも参加できるトーナメント戦も行われます。1年間で総合選手権、藤沢市民総合体育大会、社会人選手権という3つの大会が開催されます。社会人選手権を残して2大会が終了しましたが、残念ながらどちらにも不本意な結果となってしまいました。社会人選手権は、前の2大会よりも良い結果が出せるよう頑張りたいと思います。

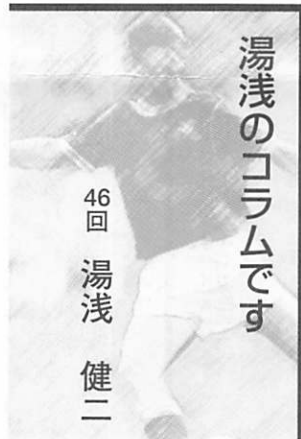
総合選手権…3回戦敗退

藤沢市民総合体育大会…1回戦敗退

社会人選手権…1回戦突破(開催中です)

今年で僕達が湘南クラブとして活動をはじめから4年目になります。来年はチームのメンバーの半分以上が就職を控え、このメンバーでサッカーをするのも

今年で最後になってしまいかもしれませんが、そのような事情もあり、またリーグ戦で優勝を狙える位置につけているため、チームは今までで最高のモチベーションを持って毎回の試合に臨んでいます。リーグ最終戦、各自が自覚を持ってそれぞれの役割をこなし、湘南クラブの持ち味であるチームプレーを最大限に発揮できれば優勝のチャンスも十分にあると思います。4年間の湘南クラブの活動に一つの区切りをむかえようとしている今、最高の結果を残したいと思っています。応援のほどよろしくお願いします。



湯浅の「リム」です

46回 湯浅 健二

「何をやっているんだ！ もっと考えてプレーしろ！」。私が湘南高校で現役の頃、鈴木申先生から、よくそんな罵声が飛んできたのだ。

「自分主体」で、考えながらプレーする・・・。いまとなれば、グラウンド上で考え続けられる能力が、「良い選手」になるための、唯一の「つき詰めた条件」だということに納得するけれど、当時は、何をどのように「考えるのか」について

さえ、思い悩んだことを覚えている。

私は、大学卒業後、サッカーコーチの勉強をするため、ドイツへ留学した。1976年のことだから、まだ「J」などカゲもカタチも・・・という時代。周りはいったい何しに行くんだ・・・と白い目を向ける。それでも私は、「まあサッカーがモノにならなくても、ドイツ語くらいは・・・」などとイージーに考えていたのと同時に、「とにかく好きなことで生計を立られれば、それほど幸せなことはないし、チャレンジしなければ一生悔やむことになる・・・」と、ドイツへ出発した。そして、Bライセンス、Aライセンスと段階を踏み、1981年、はれてドイツの国家試験に合格して、プロサッカーコーチのライセンスである、「Fussball-Lehrer Lizenz」(サッカー教師ライセンス)日本では「S級ライセンス」などと呼ばれる・・・を取得した。

そして、当時では唯一「プロ的な運営をする」チーム、読売サッカークラブ(現ヴェルディー)で、プロコーチとしてのキャリアをスタートした。

最初は、「ジュニア」と呼ばれた二軍チームの監督に就任し、すぐに、ルディー・グーテンドルフというドイツ人プロ監督のコーチとして、トップチームも受け持

つことになる。そして、ラモス、松木安太郎、都並敏史、加藤久、ジョージ与那城、戸塚哲也などを擁し、リーグや天皇杯などに優勝するなど、コーチとして至福のときを過ごした。その後、トップチームの体制を全面的にブラジル方向へ変えるというクラブの方針もあり、読売サッカークラブと袂を分かつことになる。1986年のことである。

その後は、国際的なマーケティング調査・分析・政策企画立案などの仕事一筋に歩むことになる。また、仕事の延長上で会社も起業した。ただ、時が流れるなかでサッカー界にも一大変革期が訪れる。「Jリーグ」創設・・・

何か「照れくさい」ところもあったが、私も、時流に乗ってサッカーにかかわるメディアの仕事徐徐にこなすようになっていった(もちろん現場復帰も視野にいられて・・・)。やはりサッカーが大好きなのである。

最初は、ラジオ文化放送の解説から入り、その後は、プリントメディアで文章を発表したり、「闘うサッカー理論(三交社)」、「サッカー劇場へようこそ(日刊スポーツ)」、「出版社」、「五秒間のドラマ(ゼスト)」、「サッカー監督という仕事(新潮社)」など、何冊かの本も出版した。現在は、「インターネット」という新しいメディアを中心にサッカーのことを書いています。私

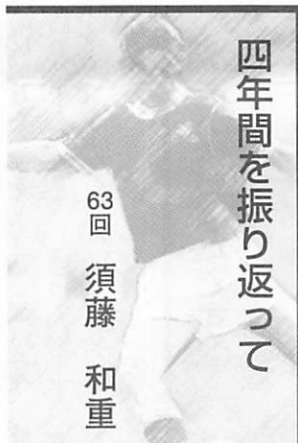
個人のHP、「湯浅健二のサッカーホームページ」(http://www.axisinc.co.jp/yuasa.html)だけではなく、「Yahoo Sports 2002クラブ」、大規模スポーツサイト「スポーツ・ナビ」など(私のHPのトップにリンクボタンあり)。またサッカーマガジンでも、隔週で「1/4コラム」を連載している。

そんな私のメディア活動の「ターゲット」は、生活者がよりサッカーに関心を持ち、語りはじめることで、日本社会にスポーツ文化(サッカー文化)が深く浸透していくこと。スポーツは、人々に元気を与える存在だし、特にサッカーは、比類のない「異文化接点」としてのパワーも秘めている。それについては、「2002ワールドカップ」がくれば、社会全体が体感することだろう。私は、サッカーの普及が、日本社会に様々な有形無形の価値を生み出すと確信しているのである。

私がドイツで学んだもの。その「コア」は、何といても、サッカーが「自由なボールゲーム」だということ。ボールはイレギュラーするし、それを扱うのは、身体の部位でも比較的ニブい、足。瞬間的に状況が変化してしまうのは当たり前だ。故に選手たちは、自分が主体になつて「考え続け」ながら、(もちろんチームプレーをベースに!) 変化し続ける状況を

のなかで判断、決断し、(勇気と責任感をもって!) 積極的に行動できなければならぬ。それが、「最終的には自由にプレーせざるをえない」サッカーを、「心底楽しむ」ためのもっとも重要な条件なのである。だからこそサッカーは、若者たちに、理想的な「個の成長機会」を与えられる。そう、チュンさんの罵声に込められたメッセージのように。

サッカーのつき詰めたキーワードは、「自由」と「国際」。その意味でサッカーは、21世紀を迎える日本社会の「イメージリーダー」にもなり得る社会的存在だと思ふのだが・・・



63回 須藤 和重

四年間を振り返って

96年4月から現役サッカー部に同行しお手伝いさせていただきましたが、00年3月末で一応の区切りとさせていただきますことになりました。藤塚先生が異動されることと、専門の先生不在になり、鈴木中先生のお手伝いということを始め、97年からは清水先生が着任され、そして今春、岩田先生と二人専門の先生となったので4年間やってきました引き継ぎのアシスタントの役目を退くことにしまし

た。指導者不在の空白を作らない為、湘南高校のサッカーとは、そして何よりも勝負へのこだわりをもって、当時の現若手OBにとつては迷惑なおせっかいをさせていただきました。

練習そして週末の練習試合ではへばな笛ですが審判もさせていただきました。B戦もみさせていただきました。どうやったらよいボールを蹴れるかということにこだわり、基本に徹底する事が大切で、これが勝負の分かれ目なんだということを嫌と言うほど何度も味わいました。

その甲斐あつてか、今も湘南高校サッカー部らしさをなくすことなく、神奈川県を勝つという当面の目標を常に目指し続けることができていると思います。ただ惜しまれるのはこれもいつものことですがあと一歩というところまでのらしさでも、しかしこの殻をいつ破つても不思議ではありません。

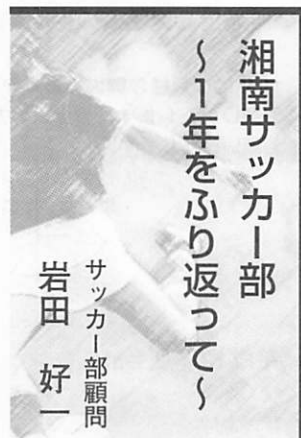
これからはコーチと選手だけの練習と試合というよりも、チームが万全の状態での公式戦に臨むことができるような細かなクラブマネジメントも必要で、できる範囲で少しずつプロのクラブチームの良いとところを採り入れて、OBがバックアップしていけば、神奈川県も光と陰から新しい湘南の風が吹く時代になると思います。

具体的には選手のコンディショニング保持としての医療面のサポートや、カテゴリーを超えた、大学、社会人、クラブなどの強い相手との、良い芝のグラウンドでの

練習試合です。強いチームと対戦しても臆することのないような経験が今よりも必要とされています。昔の湘南はこうだった、ということを目頃、ましてや強豪との試合前に話すよりも、選手自身が肌で感じ、自信を持つことが、情報に敏感でそれに呑み込まれて、力を発揮できずに終わることがなくなり、本当の強いチームになり、OBである我々を楽しませてくれると思います。

また公式戦に出ていた選手だけでなく、練習でグラウンド整備などの、きめこまかなサポートもしてくれた部員やマネージャーも含めて、どこに行つても、サッカーにかかわつたことを誇れる、プレイするだけでなくサッカーを語れる、そしてOB会に顔を出してくれる湘南OB、OGが増えることも期待します。それは湘南高校サッカー、広くはサッカーの繁栄につながると思います。

ワールドカップやトカチヨなど新世紀も迎えてサッカーはもっと面白くならなければならぬと来ましたが、湘南のサッカーももっと面白くなることを信じて疑いません。これからも現役とOB会の発展を望み、一助になれたらと思います。



湘南サッカー部
 ～1年をふり返って～

サッカー部顧問
岩田 好一

昨年、湘南高へ転勤になり、今年度よりサッカー部の顧問として、清水先生の下で指導に当たってきましたが、あつという間に1年が過ぎてしまった感じをいだいています。

昨年度は、グラウンドをスタンドから漠然と見ていました。しかし今年は、顧問になった以上、清水先生を補助ししっかりと指導できるようにという心がまえを持ち、生徒の練習に少しでも手助けになれるようにと思ひ、やってきました。

部員の第一印象は、とにかく何でも吸収しようとする集中力と、指導員が何を言わんとしているかを把握する理解力が素晴らしいと感じました。私も、普段、朝7・30前には学校へ着けるように出勤してありますが、彼らは、すでに登校し、練習を始めている状態です。湘南という勉強面でも県下トップレベルにあり、この部活に対する姿勢を見ると文武両道という言葉が、まさに当てはまると感じられます。早朝より、グラウンドでボールを蹴り、昼休みは、グラウンドを整備し、放課後は授業終了のチャイムが鳴ると勉強から解放されたように昇降口よりグラ

ウンドに飛び出してくる姿勢は、サッカーに対する意気込みを十分に感じることが出来ます。とにかく、練習は、基本が中心で、特に、今まで私が前任校等にしてきたキックの蹴り方がすべて違うのには、ほんとうに驚きました。私の今までのキックの蹴り方を根本から翻す練習でした。しかし、ずっと見ていると利にかなひ、ほんとうにすばらしい練習方法だとわかりました。サッカーの基本は、ボールを蹴ることが基本だと改めて痛感しました。入学当時、とまどいを見せていた1年生も、上級生や清水先生の指導のもとに、今では、非常にたくましくなり、秋の新人戦等、危ない試合は何試合かありましたが、湘南という名前に気負った相手に勝ち、何とか県大会に出場することができました。まだまだ発展途上のチームですが、OBの方々の物心両面にわたる絶大な援助をいただき、より上位を目指すチームを清水先生、共々作っていきたいと思っています。

**平成十二年度
 公式戦の成績**

サッカー部監督
清水 好一郎

【関東大会予選】

- 1 回戦 湘南 VS 海老名 2-0
- 2 回戦 湘南 VS 麻溝台 3-1
- 3 回戦 湘南 VS 座間 0-1

【高校総体予選】

- 2 回戦 湘南 VS 鎌倉 0-1

【高校選手権予選】

- 1 回戦 湘南 VS 向の丘 3-0
- 2 回戦 湘南 VS 横浜商 8-0
- 3 回戦 湘南 VS 日大高 0-1

【新人戦（リーグ戦）】

- 湘南 VS 藤沢翔陵 4-0
- 湘南 VS 長後 3-0
- 湘南 VS 湘南通信 3-0
- 湘南 VS 藤沢西 1-1

【県大会 代表決定戦】

- 湘南 VS 七里ヶ浜 2-1

【シード決定戦】

- 湘南 VS 大清水 0-0 (PK 5-3)
- 湘南 VS 湘南工科 0-0
- (PK 4-5)

湘南 VS 茅ヶ崎北陵 0-2

以上の結果により県大会はノーシードで出場する事になりました。

(64 チーム 出場)

今年度の成績について

上記の成績については結論として大変不満足な1年でした。メンバーは昨年の経験者も多く、最低ベスト8に入る実力はあったと思われるからです。

原因としては関東大会の予選終了後、主力選手に怪我により戦力がダウンし、またその怪我の回復が予想以上に遅れ、選手県予選に間に合わなかったことでした。

8月から新チームに切り替わって、地区の予選から再スタートを切ったが、基本技術の甘さが目立ち、県大会の出場が危ぶまれたが、なんとか頑張り予選突破が出来ました。

今年度から岩田先生と一緒に指導をしているおかげで、Bチームのゲームが多くなり、(月曜日に近くのチームとリーグ戦)全体のゲームの量が多く、選手モチベーションが高くなり、選手層も厚く、人ががでて対処しやすくなり選手に無理をさせないですむようになりました。

この冬季の期間基礎技術と体作りをしつかり行い、新人戦(県大会、関東大会)予選に臨んでいきたいと思ひます。

まだまだ、物足りないチームですが、県代表を目指して飽くなき挑戦したいと思います。

今後とも、御支援、ほどよろしくお願ひします。

<13年度会費納入の件>

12年度は皆様の御協力ありがとうございました。本年もよろしくお願いいたします。社会人の方は、できましたら2口以上の寄付をお願いいたします。

・社会人 1口 5,000円
・学生 1口 3,000円

蹴球祭当日、受け付けを致しますが、御欠席の方は同封の用紙にてお振込み下さるようお願いいたします。なお、下記銀行口座も受け付けていますのでご利用下さい。

横浜銀行 本店 普通預金
口座番号 019166
湘南高校サッカー部OB会
武藤俊一 tel.0466-34-9329

<平成12年度会計報告>

<収入>

会費・寄付	1,176,000
小田原高校から	30,000
繰り越し	11,809
利子	42
計	1,217,851

<支出>

現役寄付	400,000
蹴球祭	87,551
遠征補助 (OB)	100,000
筑波大付属戦補助	30,000
夏合宿補助 (OB)	50,000
指導者交通費	50,000
小田原高校創部70周年お祝い	50,000
通信・事務費	192,400
印刷費	206,400
慶弔費	5,000
通帳残	46,500
計	1,217,851

<平成13年度湘南サッカーOB会予算案>

<収入見込み>

150名 (社会人140名, 学生10名)
 $90 \times 10,000 + 50 \times 5,000 + 10 \times 3,000 = 1,180,000$
 繰り越し金 46,500
 計 1,226,500

<支出>

現役寄付	500,000
遠征補助	150,000
印刷費	210,000
通信・事務費	160,000
蹴球祭・夏合宿	150,000
付属定期戦補助	30,000
予備費	26,500
計	1,226,500

蹴球祭・総会のご案内

日時●1月8日(月・祝) 10:00～16:00

場所●湘南高校(グラウンド、セミナーハウス)

<予定>

10:00～12:00 40代～50代のOB戦

挨拶・現役交歓会

12:20～14:20 若手OB・現役戦

15:00～16:00 総会

(食事、飲み物等ご用意しております。)

[ホームページアドレス]

神奈川県サッカー協会 <http://www.kanagawa-fa.gr.jp/>
 湘南ベガサス・ジュニア <http://www.cityfujisawa.ne.jp/y.asa/>
 湯浅健二 <http://www.axisinc.co.jp/yuasa.html>

[メールアドレス]

鈴木中 先生 fwng6921@mb.infoweb.ne.jp
 武藤俊一(事務局) m9329@cityfujisawa.ne.jp
 関 佳史(事務局) seki@fancy.ocn.ne.jp

※HPアドレス掲載をご希望の方は、お申し付けください。来年度より掲載いたします。